

有限会社グリーンハウス

※2018年3月現在

代表者名	松村 正勝	資本金	3百万円
設立年	1994年8月1日	売上高	234百万円(2017年2月期)
事業内容	生産(ネギ、ミニトマト、チンゲンサイ)	経営規模	施設5ha、露地2.4ha、生産施設198㎡
従事者数	49人(うち女性37人。女性内訳:役員1人、管理職1人、一般職7人、常勤パート28人)		
女性活躍支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 産前産後休業、育児休業、短時間勤務制度等の措置 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の業務改善		



経営概況

昭和30年代中ごろに開作された干拓地で、同社は小ネギを栽培している。干拓後、社長の松村正勝氏の父が入植し稲作を行っていたが塩害に苦しみ、ようやく一定の収量が見込めるようになった頃、すでに減反の時代を迎えていた。

そこで需要の高い万能ネギに着目し、1993年に小ネギ栽培に転換。翌年、正勝氏の就農と同時に法人化した。たゆみなく規模を拡大しつつ「ネギ三昧」の商標登録を取得し、自社ブランドを確立。ハウス栽培と露地栽培を組み合わせることで通年出荷し、中国地方だけでなく首都圏や大阪の市場にも需要があるという。現在、需要に出荷が追いつ

かず7割ほどに留まるといい、さらに規模の拡大を続けるほか、2018年には洗浄や袋詰め加工場を新築し、1日の出荷量を1.5倍に増やす計画だ。また、市内の中山間地に農地を確保し子会社を設立。現在4haの露地栽培を10haまで拡大し生産量を増やす計画としている。

1. 経営者の理念・意識改革

「職場に笑顔、地域を笑顔に」を経営理念のひとつとし、「閃きのないところに進歩なし」を合言葉に、農業界のトップランナーを目指しているという。見学受け入れなど地域教育にも積極的で、市の教科書(小学校3年生向け)に地域農業の事例として紹介されている。子会社設立は遊休農地対策の側面もあり、地域農業振興の理念に基づいている。

同社の従業員は役員を含め49人で、女性の常勤パートが28人と過半数を占めるのが特徴だ。なお、役員は3人(正勝氏、正勝氏の妻の孝子氏、元社員の男性)、管理職4人(男性3人、女性1人)、



一般職14人（男性7人、女性7人）となっている。

常勤パートはすべて女性で、小ネギの選別、計量、袋詰めなど、手先の細かさや丁寧さ、忍耐力をも求められる地道な作業をしっかりと担い、同社の経営を支えている。正社員は常に「パートさんのおかげ」という感謝と社内融和の意識で、日々の業務に当たっているという。

2. 女性の採用とキャリア形成

同社は将来にわたり規模拡大を続ける方針で、終身雇用を基本としている。社員の採用には男女を問わず、優秀な人材を全国から募ろうと東京での就農フェアに出展するほか、HPを充実させ会社のイメージアップにも力を入れている。能力重視で県内の高校や農業大学校からの採用も行い、結果として2年前には地元の高校を卒業した女性社員2人を雇用している。また、パートから正社員への登用の道も開き、女性2人が正社員となった実績がある。

社員の研修には力を入れ、年に1回自らテーマを決めて研修を行い社内で発表している。たとえば、前述の高校新卒の女性社員2人はビジネスマナー講座を受講し、生産担当の男性社員は栽培の新たな工夫について研修するなど、スキルアップとモチベーションの向上に役立っている。

資格の取得も積極的に支援し、種別ごとに数千円から2万円の資格手当を支給している。規模の拡大により近く従業員が50人を超えることから、2017年には管理職の社員に衛生管理者免許の取得を促した。この管理職社員は女性で、同社では従業員の過半数を占める常勤パートがすべて女性であることから、同性としてコミュニケーションをとりやすいこと、労働環境に目が行き届きやすいことなどを考慮した結果だという。新加工場が完成すると、現在4か所の加工場が1つにまとまり、パート従業員の労働環境や人間関係にも

変化が見込まれている。その対応においても、衛生管理者に高い期待が寄せられている。

3. 女性が働きやすい環境の整備

終身雇用を掲げる同社は、女性の産前産後休業はもちろん、育児休業は男女ともに取得を推奨し、「やまぐち子育て応援企業」「やまぐちイクメン応援企業」に登録されている。先の管理職の女性社員には3人の子供があり、出産の度に産前産後休業と育児休業を取得した。しかも3人目の育児休業中に衛生管理者免許を取得したという。

パート従業員にも同様の制度があり、これが同社のイメージアップにつながり、この数年の間に若い女性のパート従業員が5人増えた。男性社員の育児休業の取得も推奨しているが、給与が6割になることを理由に今のところ取得の実績はないという。

現在、東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供を視野にASIAGAP取得に向けて取り組んでいる。これに伴いリスク管理など労働環境の改善も進められており、従業員が自ら考え話し合いながら働きやすい職場づくりを実践している。

審査委員の声

父の代の干拓地の稲作から小ネギの栽培に転換した直後に就農した松村正勝代表は「ネギ三昧」という独自ブランドを確立、着々と生産規模や販路を拡大しつつある。代表の営業力が同法人をけん引するが、経理担当の社長の妻やスタッフ管理などを担当する女性幹部社員がしっかりバックアップしている。この幹部社員は3人の子育てをしており、女性が働く環境整備も充実。規模拡大を目指し、全国からの人材募集、パートから正社員への登用なども積極的に進めている。